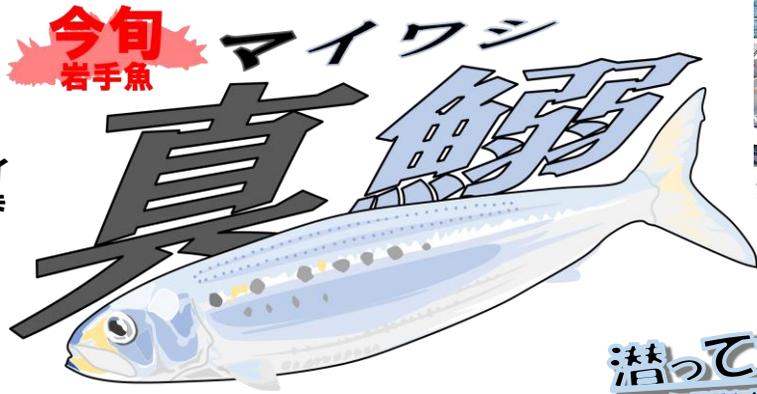




実践に勝るものなし (広田湾ダイビング実習)



3年生が広田湾の海でダイビング実習を行った！これまで学んできた知識を確かめながら、実践的な技術を習得した！



潜って貢献！ (広田湾・大野湾磯焼け対策事業)



陸前高田市と手を組み、大野湾と広田湾で近年問題となっている磯焼けの調査を行った！ダイビングの技術を身に付けた3年生が参加し、身近な海の「今」や「海藻の移植方法」を学んだ！

先生の独り言 vol.9 「長寿は平和とマイペースでできている」

「最も長生きする魚」をご存じだろうか？答えは「ニシオンデンザメ」。平均して200年以上生きると言われており、観測された中で最高は512才。私たちがよく目にする魚では、マダイが40年、ウナギが70年と長生きであることが知られており、それに比べてもニシオンデンザメは圧倒的な長寿である。体長は6-7mと大型であるが、成長はとても遅く、一年間に1センチしか伸びない。加えて、子どもを産めるようになるまで150年もかかるのだ。



ニシオンデンザメが遅いのは成長だけではない。実は、泳ぎが遅い、「世界のろまな魚」としても知られている。その速さは時速1km。人が歩く速さの半分以下の速さだ。「のろまが過酷な海で生きていけるのか？」と思うかもしれないが、ニシオンデンザメは体が大きいことに加えて、北極海や深海などの生き物が住みにくい過酷な環

境で暮らしているため、敵に襲われる心配が少ない。また、餌物を待ち伏せたり、死肉をあさることで餌にありつくため、のろまであっても飢えて死ぬことはない。他の生物と争うことなく、ゆっくりマイペースに暮らしているのだ。

人類の歴史を振り返れば、「長く生きること」が人の夢であることに気がつく。医学が進歩してきたことも、戦争で限りある資源や領土を奪い合ってきたことも、究極的には長く生きるためである。長寿の手がかりを求めて、ニシオンデンザメの体も長きにわたり研究されてきた。しかし、このサメについて知れば知るほど思うのだ。長寿になるための答えはきっとシンプルで、長生きする体ではなく、「他の生物と争わずマイペースに生きる」ことにあるのだと。

